報告会

就業体験

経済、経営、商、ネットワーク情報の各学部と、文学部人文・ジャーナリズム学科では、正課授業として、インターンシップ（就業体験）を導入している。

担当教員による事前指導を経て、夏期休暇中に1～2週間、企業や団体、行政などで研修に参加した。後期に行われた報告会で、学生たちは、それぞれの体験や成果を報告。研修受け入れ先の担当者から叱咤激励を受け、「働くことの意義」を実感していた。

報告会の一部を紹介する。

働くことの意義を知る

経済学部

経済学部の「学外特別研修」発表会が12月10日、生田キャンパスであった。特別研修では2、3年次生19人が、事前学習を経て夏期休暇中に企業や地方自治体、NPO法人などで実務を経験した。発表会では一人一人が研修内容や成果を報告、受け入れ先の担当者が講評した。

学生たちはインターンシップの目的に「働くことはどういうことか知りたい」「業界のことを理解したい」と挙げた。

編集プロダクション・カデナクリエイト（東京都文京区）で11日間、研修した2年次の三浦博和さんは、テープ起こしや取材同行のほか、執筆も体験した。「3日かけて1500字の文章をなんとか完成させた。取材で話を聞き出すことや、原稿を書くことの難しさが分かった」と報告。「電話1本取るのも、最初はなかなかできず、自分から積極的に動かなくてはいけない」と振り返った。

受け入れ先の竹内三保子さんは三浦さんについて「返事が良く、予定になかった仕事までお願いした。返事ややる気は、周りの人間の気持ちも変える」と話した。

山崎製パンでの研修について報告する仲野克哉さん（3年次）

三浦さんが取材した中島綾香さんは今春、本学経済学部を卒業し、㈱USENに就職したばかり。2年次に同授業を履修し、カデナクリエイトで研修した。そこで生まれたつながりを大事にしてきたと言い、「インターンシップはその後の人生の励みになっている。将来どんな仕事に就いても人との関係を大事にしてほしい」と後輩を激励した。

業務通じ経営戦略学ぶ

経営学部

経営学部の「企業研修」発表会が12月13日、生田キャンパスで開かれた。2、3年次生10人が包装資材メーカー、資源リサイクル企業、スポーツクラブや結婚式場の運営会社など9社で約10日間研修。受け入れ先の担当者も出席し、成果を報告した。

経営理論が企業でどう実践されているのかを学び、社会人としての柔軟な思考を身につけるのが狙い。学生は「顧客満足度や社員のモチベーションが高いのはなぜか」「どんな経営理念を社員が共有しているのか」などテーマを設けて臨む。

大桃浩太さん（3年次）は、携帯電話販売事業からスポーツジム運営に乗り出した㈱システムステーション（横浜市）で研修した。両事業の店舗を視察し、顧客を新規開拓する法人営業に同行、社員研修にも参加した。需要が落ち着いた携帯電話事業の現状と、東京五輪に向けて盛り上がるスポーツ産業の両方を知り、「成長業界を見極め、事業の連携を図る経営戦略を学んだ」と話した。

経営理論がどう実践されていたか発表

同社の村上道也人事部長は「事業の多角化や経営のリスク回避に興味を持ち、熱心に質問していた。教えることによって社員にも気づきがあり、刺激を受けた」とねぎらった。

経営学部の企業研修は1999年に始まり、受け入れ先は同学部をはじめ専大出身者が経営する企業。担当の奥村経世准教授は「社長自ら学生の面倒を見てくれる会社もあり、先輩の活躍は励みになる」と語る。

出版社や新聞社で活動

文学部人文・ジャーナリズム学科

文学部人文・ジャーナリズム学科の3年次生23人が夏期休暇中に行った「インターンシップ」の成果発表会が12月10日、神田キャンパスで開かれた。

同学科の受け入れ先は新聞社、出版社、放送局、印刷会社、公共機関、NGOなど20社・団体。当日は受け入れ先担当者も参加して学生たちの発表を聞いた。

出版と情報サービスの日外アソシエーツ（東京都品川区）で8月末から10日間就業体験した阿部峻也さんは、作家、研究者などの人物や論文の情報をデータベースにするための入力と校正作業を行った。

「根気の要るもので、会社を支える重要な仕事だと思った。音楽関係の出版社を志望している。可能性を探っていきたい」と話す。

受け入れた同社編集局の青木竜馬課長は本学卒業生（昭63商）。「地道な作業をよくこなしてくれた。仕事の厳しさや責任感はどんな職種でも共通している。就活にこの経験を生かして」と後輩にエールを送った。

体験を話す阿部さん

中日新聞東京本社には豊島鉄博さんと須藤久美子さんが8月末から5日間、政治部、外報部、社会部、特別報道部などで記者体験をした。

河野太郎衆院議員の取材に同行した豊島さんは「人から話を聞き出す難しさを改めて感じた」と振り返る。

須藤さんは東京新聞特集面「こちら特報部」の取材で、就活中の専大生にインタビューし、紙面を飾った。「本当に相手の伝えたいことを的確に表現しているかどうか、出来上がった紙面を見て考えた」と表情を引き締めた。

14ゼミ157人がプレゼン

経営ゼミ連・卒論合同報告会

経営学部ゼミナール連合会主催の卒業論文合同報告会が12月10日、生田キャンパスで開かれ、14ゼミの157人が発表した。年明けに卒論提出を控えた4年次生が概要をプレゼンテーション。教員らから指摘や助言を受け、完成に向け意欲を高めていた。

多くの学部生の前で発表することで卒論の内容をより深めるとともに、ゼミ活動を活発化させようと2008年から始まり9回目。

卒論の概要を報告する４年次生

開会式ではゼミナール連合会合同卒論報告会実行委員長の島田慎也さん（3年次）が「報告会は4年次生が研究の成果を発表する場。2、3年次生は次の研究の刺激にしてほしい」とあいさつした。

発表は11～12人ずつ各教室に分かれて行われた。1人20分でパワーポイントを用いて報告し、質疑に応じた。

テーマは長時間労働やクラウドファンディング、地方銀行経営やLGBT（性的少数者）など多岐にわたった。経営学部の教員が審査し、論理性や新規性、プレゼンテーション能力などを評価した。各教室で一人ずつ計14人がベストプレゼンター賞として選ばれ、賞状が贈られた。

福原康司准教授は「実践的な研究に取り組む学生が多く、年々クオリティーが上がってきている」と評した。

ベストプレゼンター賞は次の皆さん。（敬称略）

▽伊東大樹（青木ゼミ）▽由利一敬（同）▽佐藤慶（植竹ゼミ）▽中塚匡彦（同）▽上山宣貴（小沢ゼミ）▽柏原光彰（関根ゼミ）▽田平萌佳（同）▽安倉有咲（同）▽伊藤直裕（馬場ゼミ）▽長野誠（福原ゼミ）▽宮沢祐哉（同）▽石橋ちあき（間嶋ゼミ）▽永野里佳（同）▽森口夏樹（同）

就職課から

〈4年次生へ〉就職をまだ諦めないでください。2月17日(金)には、学内企業説明会をサテライトキャンパスで開催します。企業は、学生を採用できる最後のチャンスとして皆さんに会いに来ます。「知らない企業だから」ではなく、「知る」ところから始めましょう。

〈3年次生へ〉就職活動が解禁になる3月1日(水)が近づいてきました。いざエントリーをする際に焦ることがないように、今から業界・企業を少しずつ考えていきましょう。神田校舎では2月15日(水)から業界研究入門STEP3を開催します。1日で最大6社の話を聞けるお得な講座です。また、2月20日(月)からは公務員・独立行政法人等業務説明会も開催します。生田校舎では2月27日(月)、28日(火)にメガバンクの業務について学ぶ講座も開催します。

就職活動は情報量がものをいいます。できるだけ多くの講座に出席して、知識を増やしてください。業界を「絞る」のはその後からでも遅くありません。

佐久間准教授の研究が助成採択

佐久間由梨経営学部准教授（英語）の研究「21世紀におけるポピュラー・ミュージックの倫理学―ミュージック・ビデオと音楽フェス」が、公益財団法人上廣倫理財団の2016年度研究助成に採択された。助成期間は本年2月から1年間。

最終講義ご案内

◆石村修法科大学院教授　2月25日(土)12時20分～神田キャンパス201教室

◆大庭健文学部教授　2月26日(日) 13時～生田キャンパス1010教室

「ニュース専修」年間購読のご案内

「ニュース専修」をご愛読いただきありがとうございます。2017年度（4月から1年間）の年間購読者を募集しています。購読料は1000円（郵送料含む）です。

※育友会員及び年会費納入済みの校友会員はお手続き不要。

※本年3月に卒業される方には、5年間校友会からお送りいたします。

※4年次以上の育友会員には払込取扱票を同封いたしましたのでご参照ください。

広報課からのお知らせ

〒101－8425（専用郵便番号）千代田区神田神保町3－8　専修大学広報課
☎03・3265・5819
E-mail:koho@acc.senshu-u.ac.jp